

令和元年度「英語教育の町 金ケ崎」 成果と課題

金ケ崎町教育委員会

1 はじめに

金ケ崎町教育委員会では、2011年から町の施策として「英語教育の町金ケ崎」を立ち上げ、グローバルな視点を持って世界に貢献するような人材育成について、英語教育を通して取り組んできた。

2014年から2019年まで文部科学省の「教育課程特例校」指定を受け、小学校外国語活動の先行実施（小学校3・4年生）を行ってきた。

合わせて、町独自の取組として、小学校1・2年生にも年間20時間の英語活動を継続して行ってきた。小学校5・6年生には、令和元年度から週2時間の授業を行い、令和2年からの教科化に備えてきた。

町内の幼稚園と保育園の合計7園にもELT（English Language TeacherとしてALTを町独自の名称で呼び、コミュニケーション積極的にすることを意識した）を配置して、3歳児から英語に触れる環境を作ってきた。

中学生への環境整備としては、毎日学校にいるELT、English DOJOなる英語キャンプ、英検受検への補助を行い、実践的な英語と確かな英語力強化に努めてきた。

この取り組みについて令和元年度の成果と課題を挙げ、令和2年度の展望を考えた。

2 教育課程特例校としての成果と課題

「英語教育の町 金ケ崎」として取り組む中で、文部科学省指定の「教育課程特例校」について成果と課題を挙げる。

(1) 自己評価

5つの小学校からと町で働く4人のELT（一人は金ケ崎町教育委員会の職員）からの評価

ア 小学校からの評価

(ア) 成果

- ・GOALを意識した活動ができている。
- ・小さい年齢から、長年積み重ねているので、子どもたちのコミュニケーション力、語彙力がついている。発音もいい。
- ・ELTと事前の準備をしたおかげで、授業のテンポがよくなった。
指導スキルの向上が感じられる。
- ・ELTとの連携で、子どもたちの状況を見取りながら評価に生かしている。
- ・授業前の打ち合わせで、見通しや重点を明らかにしながらできるようになってき

た。

- ・担任が目標と内容を作成した上で、ELT との打ち合わせをすることができた。
- ・「書くこと」の活動を単元の中に計画的に位置づけることができた。
- ・常時移動式のテレビに、デジタル教科書をインストールしたパソコンを接続しておくことで、各教室で英語活動を実施することができている。
毎時間教室で行うことで「書くこと」の活動をスムーズに行えるメリットがある。
- ・先進地視察に参加し、他県の外国語活動を参観することができた。金ケ崎町の英語活動との進め方の違いを感じた。金ケ崎町は、担任が主になって学習を行いながらも、子ども達がたくさん英語を聞いたり話したりする活動を行っていると思う。子ども達の英語活動への意欲も高い方だと感じた。現在のような英語活動の取り組みを継続していきたいと感じた。
- ・ELT との打ち合わせを行うことが日常化した。これにより、見通しをもって授業を進めることができた。

(イ) 課題

- ・聞く・話す・書く活動の順序やバランスについてはまだ手探りの段階である。
ただ、長年取り組んでいる英語活動の良さであると思うが、聞くことについては、ものすごく集中していると感じる。この聞く力を継続させることも課題である。
- ・やりとりを大切にしたい言語活動を通して、その英語表現を必要とする状況をつくったり、子どもたちの内面から何が知りたいかを引き出したりということを意識した授業を目指さないとならないと強く感じる。
- ・担任・ELT の役割をより明確にして授業を行えるようにしたい。
(担任はT1として授業を進め、ELT は英語での活動の説明や英語表現を繰り返し聞かせるとともに、本物の会話の相手のモデルとなる。)
- ・クラスルームイングリッシュの積極的な活用。
担任が英語を話すモデルとなることが大切と痛感した1年だった。
- ・教師や児童によるモデル提示を積極的に行っていくこと。
モデルの提示が良いと、子どもたちの活動がスムーズであったため。
- ・中学校の先生と直接打ち合わせをする機会をもつことができると、相互参観の計画を立てやすい。しかし、1単位時間の授業を相互参観することが連携になるのか疑問に感じる。小学校高学年の英語活動で大切にすることの共通確認や、それを受けて中学校でのよりよい指導方法の確認などを行った方がよいのではないか。
- ・日常生活の中に英語を使った活動を取り入れる。
- ・掲示の工夫を行う。

イ ELT の評価

(ア) 成果

- ・幼稚園や保育園で始まった英語活動を小学校の低学年や中学年に続けられたことで、高学年の外国語活動や中学校の英語でより深く、よりスムーズに取り組みられた。中学年の時数を確保できたことは、やはり大きかった。
- ・小さい頃から、英語に慣れ親しむこと、また英語を聞くことで、「耳」を育てることが金ケ崎町の成果。
聞くことができることのおかげで、小学校低学年や中学年に、英語を聞くことについてあきらめない気持ちがあったことが、子どもたちの学びにとって大きいと思った。
- ・英語活動が、特別な授業等ではなく、当たり前になった。
2011年から金ケ崎町ではたらく立場としては、成長を目の当たりにしてきた。児童の「学びに向かう姿」が、教育課程特例校を取る前よりさらに意欲的に変わったと感じた。
- ・幼稚園や保育園で出会った子どもたちと、小学校でも英語を使ってコミュニケーションを図ることができることは嬉しかった。全学年と英語ができて、毎年の成長を実感することができた。高学年でテキストを使い始めると、予想以上にスムーズに取り組めた。小さい頃から英語をやっていたので、言葉のバリアはそこまで感じなかった。

(イ) 課題

- ・幼稚園や保育園で週一英語やっていたところから、小学校1・2年生では、年間20時間（だいたい2週間に1回）になった。児童がもっとやりたい、足りないと感じているように見られた。
低学年でやってきた言葉遊びが、中学年から言葉でコミュニケーションを取ることにつながると、実践を通して感じている。
よりコミュニケーションをあきらめない、前向きな児童の育成のために、低学年の時数を増やせたらと思っている。
- ・中学年で、読み・書きをさせたい気持ちになった。児童が英語に慣れていったので、自然に読み書きをしたくなっていたと感じた。読み書きをもっと中学年でやると思った。そう思えるくらい、金ケ崎の子どもたちは、意欲があり、英語に慣れ親しんでいる。

(2) 学校関係者評価

中学校の先生方と、連携している幼稚園保育園の先生方から、そして保護者からの評価

ア 中学校からの評価

(ア) 成果

- ・コミュニケーションをあきらめないこと。
よく話を聞く。ELTの話も積極的に聞こうとしている。ペアでの活動の際にも、分かる言葉で何とかしようとする意欲を感じる。
- ・リスリングが良い
聞く力が身についていると思う。中学校に入ってすぐの英語の時間では、よくできていると感じた。

(イ) 課題

- ・小学校の外国語教科化に伴う相互参観
小学校でどんなことをしているかの実態把握。
これだけ力がついているのだから、丁寧な取組がある。毎年参観をして学び合いたいと考える。
- ・幼小中12年間の教育カリキュラム作り
3歳から12歳まで、そして15歳までと12年間にわたる金ヶ崎の英語。
これだけの素晴らしい取り組みのまとめとしての中学校英語目標の設定をさらに検討したい。

イ 幼稚園・保育園からの評価

(ア) 成果

- ・小学校との英語交流を行った。事前に打ち合わせの機会を設けたことで互いの活動の様子、子どもたちの様子を知る機会となり、親しみやすい交流内容で実施することができた。小学校のELTと触れ合うことも就学の期待につながった。
きょうだいも小学校で英語を楽しんでいる様子を見ることができた。英語を通してつながっている感覚を感じた。
- ・運動会や生活発表会では、それまでに親しみ、触れてきた英語(単語)やフレーズを使って英語活動の成果を保護者にも披露することができた。
見学に来た、卒園の子どもたちが一緒に英語を口ずさんでいる姿がとてもうれしかった。

(イ) 課題

- ・小学校との交流行事に英語活動を取り入れること。
- ・小学校の様子を参観すると、作成した町のカリキュラムが行かされていると思った。
幼稚園でも、各年齢に合わせて年齢に応じた英語活動を取り入れていくことの検討

が必要かと思った。

ウ 保護者からの評価

(ア) 成果

- ・学校での授業を楽しみにしているようです。興味を持ち楽しみながら英語に触れることができたのではと思います。
- ・授業参観で英語を聞いている姿を見ると、よく聞き取れていると感心します。
- ・普段の生活の中で簡単な英語(挨拶等)を使う姿が見られるようになってきた。
- ・お家での会話に、ALTの話が良く出てきます。外国の方と会話をしていると聞いてわが子ながらすごいなと感じました。
- ・英語に親しんでいることで、「これは英語でなんていうのかな？」と疑問に思い、家の中で質問してくるようになった。親も勉強したくなった(笑)。
- ・アルファベットの文字がでてきて、難しいように感じた。しかし、プリントなどに書く姿を見ると楽しんでいるのかなと感じた。

(イ) 課題

- ・学校でも、よくできていると聞きます。この力が、中学校での点数にどうつながるのかを知りたいと思う母です。
- ・楽しんでいることは良いことです。しかし、実際に海外行って生活できるのかなとも思いました。ここまで思うことは高望みでしょうか。
- ・英語では真剣に聞いているが、日本語は聞かない。コミュニケーションの力を英語では感じるが、朝のあいさつでは感じない。英語で学んだことが生活に生きていったらいいと思う。

3 「英語教育の町 金ケ崎」としての全体の成果と課題

教育課程特例校としての取り組みを含めて、全体の成果と課題を挙げる。

(金ケ崎町教育委員会まとめ)

(1) 成果

- ・コミュニケーションをあきらめない姿。
- ・ELTの話を含めて英語を聞く力。
- ・将来に夢と希望を持つことができる毎日。
- ・英語教育の場で行ったペア活動やグループ活動の楽しさが、他教科での学ぶ場でも生かされていると子どもたちが思っていること(参観より)。
- ・話すことでつながりが今まで以上にもっていると感じられること(先生方より)。
- ・英語の場面だけではなく、発表の際に自信をもって自分のことを言えることが多いと

感じられるようになった。

- ・先生方が、ELT とコミュニケーションを積極的に図る姿が多くなった。

(2) 課題

- ・教科化になった2020年。評価について考えなければならない。
評価のための評価にならないように、「英語教育の町 金ケ崎」にかかわるみんな
で、評価のことについて共有しなければならない。
そのために、町教委の指導主事が授業参観をして感じたことを専門的視点から指
摘することが必要であると思う。
- ・教育課程特例校としての取り組みは終わる。
ここまで培った力で、しばらくは推進できると思う。
ここまで取り組んだ力をさらに伸ばすための、町教委主導の町を挙げての取り組
みを考えたい。
- ・楽しさとコミュニケーション、実際に使ってみることを意識した、2019年まで
の取組であった。これまでの活動で、卒業していった児童生徒が、高校や大学で英
語を学ぶ機会が多い。また、英語に携わってみたいと相談に来る生徒もいる。
ここまで膨らんだ金ケ崎の取り組みを、周りへ発信していることを検討している。
子どもたちの頑張りに、これらを企画している大人も追随して更なる発展を遂げ
たい。